



電力の7~8割を太陽光で。 環境学習を視野に入れた、教育現場での省エネ

大宮保育園



〒603-8837 京都市北区大宮中ノ社町37 TEL.(075)491-4923 FAX.(075)491-4933
 ●創立：1973(昭和48)年

事務経費を含めた約1,100万円の 初期費用を、助成と寄付等でまかなう

大宮保育園は1973(昭和48)年開園の、京都でも比較的歴史のある保育園のひとつ。NPO法人「きょうとグリーンファンド」のすすめを受け、園児・保護者・スタッフらへの環境教育という観点から設置を決めたという。

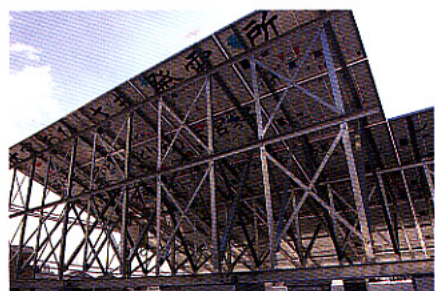
初期費用はNEDOからの助成金が約400万円、その他京都ライオンズクラブからの助成・きょうとグリーンファンドの「おひさま基金」、節電・省エネに取り組んだ保護者など一般からの寄付や保育園の資金などでまかされた。太陽光発電パネルや表示盤、設置のための工事費などを含めた総額は約1,100万円であった。大宮保育園の発電設備は市内の保育園のなかでは最大で、その出力は10.8kWにおよぶ。60名定員規模の保育園で、電力(従量電灯)の7~8割をまかなえるという。

耐久性とメンテナンスフリー

太陽光発電は環境への負荷が少ないほか、耐用年数が比較的最長いことや、ほとんどメンテナンスの必要がないなどの利点もある。

「メンテナンスはほぼフリーで、設備の寿命は20年くらいといわれました」と北尾園長。

設置のための工事も大がかりなものでは



パネルの裏には園児が描いた絵や寄付者、スタッフなどの名前やメッセージを記しています



表示盤は、発電量が電球の数に応じてわかるしくみになっている



園舎の屋上に設置された太陽光発電パネル

なく、園舎の後ろからパネルを上げる作業など2週間ほどで終了したという。

環境のことや生命のこと、 もの大切さを考えてもらえたら

巨額の費用を投じての発電設備設置には、大きな目的がある。開園から30年以上がたち、若い職員も多くなってきたころ、大切に用きたものが簡単に壊れたり、電気代が急が上がったりということが起こるようになった。

園長はふりかえる。「やっぱり物を大切にしていなかったのかなと思いました。子どもも大人も含めてね。そのときに環境問題考えないかなど。電気代という観点だけの省エネでなく、教育を通じていちばん大切な、ものや生命を大事にする心を育みたい。それがひいては地球環境を考えるようになる。そういう効果はお金で買えない、計り知れないものがありますね。」

大宮保育園では園児・保護者・スタッフそれぞれを対象にした環境学習会を開いたり、夏まつりやバザーの際にリユース(使い捨てでない)食器を利用したりもしている。現在、園舎に新しく雨水タンクの設置を計画中という。

NEDO

NEDOでは、「産業用太陽光発電フィールドテスト事業」として、各種団体や民間企業に対して助成を行っている。対象設備は10kW以上の太陽光発電システムで、発電電力量・日射量・気温等を計測・報告し、本格的な普及に役立つデータを得られる環境であると認めた企業・団体に、経費の1/2を補助する制度がある。
<http://www.nedo.go.jp/>

*NEDO：独立行政法人
新エネルギー・産業技術総合開発機構

きょうとグリーンファンド

2001(平成13)年より京都府内の保育園・幼稚園を中心に太陽光発電設備の設置・普及を目的として活動している。2003年にNPO法人(特定非営利活動法人)の認可を受けた。
<http://www.h3.dion.ne.jp/~kyoto-gf/>



その日の発電量がリアルタイムで分かる表示盤を見るのが園児たちの楽しみ